

# 私一言!

森栗茂一



夏、大阪外大開発環境講座の  
三年生が来ます!どうかよろしく!

美しい街をつくる計画など不可能だ。そこには美しい暮らしがあるだけである。どんな、自律性なき住民の町でも(神戸?)、「内から見る」と密集・空洞(と住民が思っている)町でも、美しい暮らしぶりがそこにある。異なる生活様式をもった人々、とくに若者こそ、その価値の発見者であろう。ここに都市交流の意味がある。

関西の大学生が「向島のお兄様方」から何を発見するか?「命」「暮らし」「社会」「環境」…。その訓練は、彼らが未来社会のあり方を考え世界に飛び出すとき必ず役立つ。

都市を生きるとは何か。閉鎖的な地域連合ではない。異なる人々が、相互の誤解と若干のいさかきを許しつつ、交じり合うことのダイナミックな楽しみに生きることはないか。かつての大学は異なる個性のぶつかり合いの場であった。それを研究室に囲ってしまい、学生の能力気力を減退させたのは、大学の怠慢であった。

今、求められているのは若者をもう一度、街に放ち、街に学ばせることである。その街とはどこか。美しい街はどこにでもある。しかし、異なる人々が次から次へ寄り付く向島こそ、開いた美しさをもっている。

それゆえ、野外教育の現場は向島以外には、考えられない。

## いらっしやいませ 見学の皆様

- 平成13年  
11/29 日本下水道協会東京都支部  
平成14年  
1/24 川越市  
3/8 世田谷区身近なまちづくり推進協議  
(奥沢・九品仏地区)  
5/9 住みよい暮張を考える会  
5/13 密集市街地整備推進方策検討  
委員会(財)国土技術開発センター  
5/31 国連地域開発センター  
(16カ国研修生)  
6/11 JICA国際研修(マレーシア研修生)

無人の「空き家」が防災など、まちの安全にとって問題が多いことは心配の種ですが、人が住めるためには、建物だけの問題でなく、このような仕組みにも課題があるのかも知れません。

## 向島地区の「空き家」情報に 問い合わせが殺到!!

しかし、この調査の対象はなつた「空き家」の大部分は、「改装に費用がかかりすぎる」「権利関係が整理されていない」等、何らかの事情で「貸家」として市場には出ていません。引っ越してきた若者達の住まいも、幸いにも、空き家であつた建物の持ち主と出会うことができ、改装を少なくするなどの、持ち主の負担と、借り手の負担が、一般の貸家より少なくなつた結果実現したものがほとんどです。

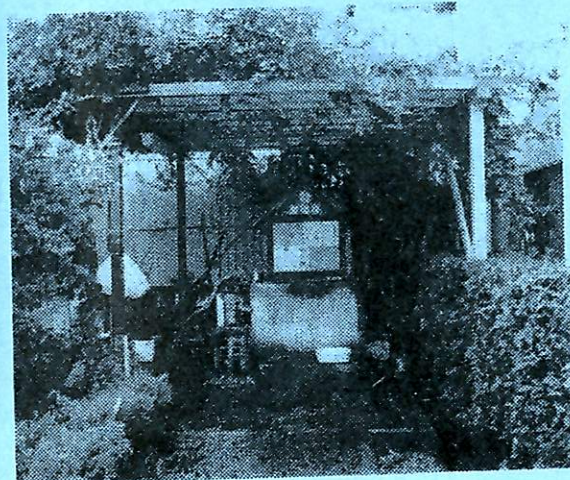


真剣なまなざし  
利用者抽選会 2月22日

☆有季園に妹(?)誕生  
五月半ば、京島一にミニ菜園「花かご」(二十区画)が完成しました。有季園にとっては、妹(弟?)分にあたります。六月十五日には、有季園利用者の須田さんが、講師として経験を語りました。将来は、体験や技術の交流などが図られるようになるかもしれません。

\* 向島有季園は、向島五丁目三十五にあり、一言会が管理運営をしている「防災小緑地」です。一言地区の皆さんが、家庭菜園として野菜や花作りを楽しんでいます。費用は無料で、二年間利用できます。

☆生け垣剪定(せんてい)会 実施  
有季園の周囲には、実験植樹として七種類の「生け垣用植物」が育っています。六月十五日、利用者さんが集まり、有季園を囲む生け垣の剪定を行いました。



路地尊3号基のある有季園

平成十三年三月に実施した、一言会の空き家調査に続き、向島消防署が墨田北部地区の空き家について調査をおこないました。その結果、約七百件の空き家があることが分かりました。

この結果がNHKの首都圏ニュースで放送され、活用の事例として、向島博覧会を契機に私たちのまちに引っ越してきた若者達が紹介されました。

その後、「私たちも向島に住みたい」という希望者からたくさんお問い合わせが、消防署や区役所をはじめ不動産相談コーナーなどに殺到しました。

### ☆新利用者決定

二月二十二日の「利用者抽選会」で、次の十二名の方が新利用者となりました。利用期間は十六年一月迄の二年間です。《利用区画順・敬称略》

- 田中 孝一 (向島五)
- 菱沼 陽子 (東向島三)
- 石橋 康人 (向島五)
- 和泉 輝子 (東向島一)
- 久保田 松子 (向島五)
- 広瀬 富一 (東向島一)
- 鈴木 永蔵 (向島五)
- 大垣 章 (東向島一)
- 栗原真由美 (向島五)
- 植竹 モト (向島五)
- 日原 光昭 (向島五)
- 須田 守男 (東向島一)

### 有季園だより

発行/一寺言問を防災のまちにする会

# 防災 まちづくり 瓦版

平成14年7月13日

いちてらこととい

## 一寺言問/防災まちづくり瓦版

編集/一寺言問を防災のまちにする会  
発行/一寺言問を防災のまちにする会  
代表 則武 勝商  
連絡先/墨田区まちづくり推進課内  
〒130-8640 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel(5608)6261

安心とつるおいの下町「川の手」をめざして

・向五西町会 50周年記念式典

4月28日、向島五丁目西町会（増田年茂会長 750世帯）は言問小講堂で創立50周年式典を行い、同時に町の歴史を語る「50周年記念誌」を発行しました。



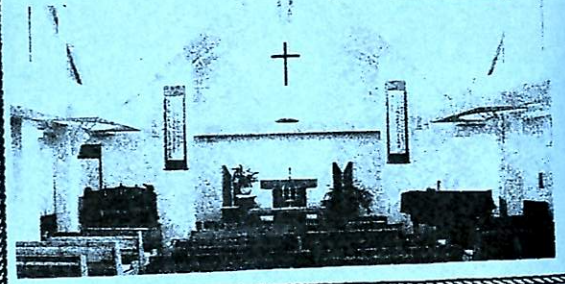
・綺麗になった御神輿

高木神社祭礼1週間前の6月2日、大修理が行われた上陸（かみむつみ=東向島1丁目）の大神輿が、たくさんの若者に威勢よくかつがれ、町内にお披露目されました。



・向島キリスト教会の建て替え

2月10日、大正13年の震災以降、一寺小の向かいに移り、町の教会として親しまれてきた「向島キリスト教会」が改築され、新築を祝う献道式が行われました。



千葉大学の社会人学生発表会「まちづくり提案 ～暮らしの形～」のご案内

この四月から、私たちのまちを課題の対象として、千葉大学都市環境システム学科社会人コースの演習が行われています。去る六月十六日には、中間発表会が一寺言問集会所で開催されました。この演習の指導を行う北原先生によると、この演習の目的は「住民の方に話をうかがいながら、まちの問題を理解し、これからのまちの可能性を提案すること」です。私たちのまちでの演習は今年で三年目となりますが、今回はより具体的な形の見える提案を行いたいということです。

中間発表会では、まちの災害時案内板の改善や、商店街の交通問題の解消、さらには、魅力的な人・場所・生活が私たちのまちに詰め込まれているという「太巻き理論」の提唱など、様々な提案が発表されました（左写真は中間発表の様子）。参加した一言会の理事からは「社会人らしい実現性と、学生らしい皆さんの夢、両方をあわせ持った提案を期待しています」と、ちょっと手厳しい？注文も出されました。

最終発表会は左記のとおり七月中旬に開催されます。どんな暮らしの形が提案されるのか、とても楽しみです。関心のある方はお気軽にご参加下さい。

# 日本一!! 雨水利用

一言会の防災まちづくりから生まれた「路地尊」は、雨水利用の施設として全国的に有名ですが、このたび、「雨水利用を進める全国市民の会」が全国一、全都一の表彰をいただきました。

全国一の表彰は、水・川・湖沼・地下水など、総ての水空間に関わる優れた活動を讃えるために設けられた「日本水大賞顕彰制度委員会」からいただいたものです。

五月三十日に開催された第四回表彰式には、ナマズの研究と自らも雨水利用を実践なさっている秋篠宮殿下からもお祝いのお言葉をいただきました。

全都一の表彰は、「東京都環境賞」で、六月五日、一言会理事でもある徳永さんが石原慎太郎知事から感謝状をいただきました。

雨水利用の先進地区として、私たちのまちでも、もっと雨水利用を広げ、豊かなまちづくりを目指していきたいと思えます。

向島の再構築をめざして

向島学会副会長 高木新太郎

企業の再構築はすっかり定着してきたが、最近では公立小中学校でさえ自由選択制が採用され、物事の内容の見直しがあらゆる分野で盛り上がっている。

社会全体が転換期を迎えているのだが、墨田区はいち早く日本を代表するプロジェクトを起して、住民の潜在パワーを起爆させた。一言会が中心となった雨水利用がそれだ。

これまで向島というと、花鳥風月や人情の側面が強調されてきたが、二十一世紀の世界的課題である環境問題で大きな提言を発信した地域とその住民へ、いま新たな視線が外部の人からも向けられている。内では花街の変身、玉の井・鳩の街に残存する貴重なアール・デコの建物、盛んな路地園芸、そして百花園は隣接の予備的植樹地を本園に繰り入れ、環境と関連付けて希少種を植えることよいのではないか。地縁を越えて、向島を見つめる眼差しは熱い。

向島の神社仏閣、伝統工芸、祭礼、名店、銘菓、生活様式など現存する風物を保存しつつ、新しい角度から見直そうと、この四月に向島学会が設立された。学会の会員の半数が墨田区外在住ということから伺えるように、外からも注目を浴びている。

地元の皆様のご参加・ご協力を心からお願いいたします。

（向島学会の詳細は、左記のホームページをご覧ください。）  
<http://www.mukojima.net/>

「てらじまひろば」が学芸会に

一昨年の「向島博覧会」以降、ニワトリが遊ぶみんなの庭園として利用されている、地蔵坂通りに面した「てらじまひろば」の様子を題材に、一寺小の児童達が昨年10月の学芸会で創作劇を披露しました。

子ども達は、いつもニワトリのお世話をしてくれていた、広場隣の三福の小父さんからニワトリの餌の作り方や散歩のさせ方などを教えてもらい、小父さん役の児童が劇中で観客にクイズを出すなどの趣向もありました。

今年、三福の小父さん（本田孝也さん）が急逝されましたが、現在も小父さんの気持ちを継いで、一寺小の理科クラブと飼育委員会の児童達が、ニワトリの世話を続けています。



ありし日の本田さん

また、水道のない広場で水を確保するため、徳永さんから使わなくなった給水タンクと、隣の石井さんの屋根から雨水をいただき雨水タンクを作り、庭の植物やニワトリの世話に使っていますが、もう一つ、東向島3丁目の小沢さんからタンクを、お隣の塚本さんから雨水をいただく第二期工事もはじまります。地蔵坂に面した大きな花壇は、商店街の皆さんが手入れをするなど、益々充実していく「てらじまひろば」です。

・則武会長おめでとう

5月15日、第52回区政功労者表彰式が、すみだりパーサイドホールで行われ、一言会の会長則武勝商さんが地域自治振興（功労賞）を山崎区長からいただきました。



集会所の屋根に上らないで!!

近頃、一寺言問集会所の屋根に上る子ども達を多く見かけます。こんな子ども達を見かけたら、どなたからでも注意をしてあげてください。



千葉大学発表会  
「まちづくり提案 ～暮らしの形～」  
日時：平成14年7月13日（土）  
午後1時30分から5時まで  
場所：一寺言問集会所  
主催：千葉大学工学部都市環境システム学科  
協賛：一言会、墨田区